

神経化学の若手研究者育成セミナーで磨かれる研究者力

岸本 祐典

(大阪府立大学大学院 理学系研究科 生物科学専攻
分子生物学分野 居原研究室 博士後期課程1年)

神経化学の若手研究者育成セミナーでは、様々な考え方・バックグラウンドをお持ちの先生方、同世代の研究者の方々と議論し、非常に有意義で楽しい時間を過ごすことができました。この経験が、まだまだ未熟ではありますが、私の研究者としての成長に繋がったのではないかと感じております。このような育成セミナーを毎年開催し、若手育成に注力されておられる日本神経化学会の先生方に、心から感謝申し上げます。そして、この度は本稿を執筆させて頂けることとなり、受講生の立場から、育成セミナーの素晴らしさを、少しでも若手研究者の皆さまに伝えられればと思っております。

私は昨年度、初めて育成セミナーに参加しましたが（今回の参加は2回目です）、初回の参加については随分迷いました。セミナー内に知り合いがいない上、私は社交的な性格ではありませんし、神経化学に関する知識・技術・業績に関しての自信もなく、果たして講義・ディスカッションについていけるのだろうか、話の中に入っていけるのだろうか、と思っておりました。最終的には思い切って参加したわけですが、去年のセミナーが非常に有意義であったと感じたので、こうして今年も参加しております。私のように考えて参加を見送った方がもしいらっしゃれば、そういった心配はございませんので、是非とも次回以降ご参加を検討されてみてはいかがでしょうかと思います。きっと良い経験ができると思います。

育成セミナーは、2日間にわたり行われました。受講生がいくつかのグループに分かれて、各グループ2名の先生による講義を受け、その後、全員でフリーディスカッションを行うという流れで行われました。参加時に学会ホームページを見て、興味をもったグループを申請書に記載します。私は今回Dグループ、総合講義タイトル「研究テーマや研究室を変えるメリット、デメリット」に参加致しました。国立精神・神経医療研究センターの関 和彦先生が「システム神経科学研究者の作り方」、生理学研究所の吉村 武先生が「どうやって次の研究室を決めたらいいの?」という題目でご講義されました。私がこのグループを希望した理由は、先が見えづらい研究者人生を考える上で、いろいろなラボを渡り歩いてきた先生方の経験、考えを聞きたいと思ったからです。講義は少人数制であり、講義中でも思ったことをいつでも質問できる雰囲気、先生方は何でも答えて下さいました。関先生は、先生が関わった様々な先生方の研究スタイル、考え方を紹介し、ご講義されました。研究者と一言に言っても、その研究スタイルはずいぶん違うということを知ることができ、自分がどのようなスタイル、考え方で研究を進めているのかを見つめなおすことができました。吉村先生は、国内で、留学で、ラボを移籍した際の経験を、先生自身はもちろん、先生の知人の先生方の経験を含めてご講義されました。私はまだD1の学生ですので、短期で外部の先生にお世話になったことはあっても、ラボを移籍した経験はありませんし、研究テーマがガラッと変わってしまったこともありません。先のことは分からない、ラボやテーマを変えたことが無いからこそ、こういった機会に様々な先生方の経験、考え方を学べたことは非常に有意義

でした。これからの研究者人生を考える上で、先生方の講義は非常に参考になりましたし、これから先の人生選択においても、今回の講義が役に立つことが来ると思います。

講義の後のフリーディスカッションでは、先生方、受講生の皆さまと、お酒をまじえつつ、楽しく議論することができました。あまり自分から会話を始めるのは苦手な性格ですが、和やかで話しやすい雰囲気のおかげ、日ごろ思っていることを何でも相談できました。大学院生としての研究はどうあるべきなのか、どういった意識、志で研究を進めるべきなのか、他のラボはどういうスタイルで研究を進めているのか、研究者にとって大事なことは何なのか、留学は行くべきなのか、海外と日本の研究スタイルはどう違うのか、教育者になったときに大事な心構えは何なのか、パーマネントポジションにつくためにはどういったことが必要なか……。他にもたくさんのお話をしました。学術的な話はもちろん、プライベートなことなど、挙げればきりがありません。同じ研究グループから離れて、様々なバックグラウンドを持つ研究者の方々と議論できる機会はあまり無いと思います。育成セミナーに参加し、とても文章で書ききれない、いろいろなことを学びました。

学会中も、セミナーで知り合った先生方と、議論することができました。私はポスター発表を行いました。セミナーで知り合った先生方、受講生の皆さまがいらっしゃり、議論することができました。私もセミナーで知り合った皆さまの研究に興味を持ち、内容を聞きに伺いました。神経化学といっても、内容は多岐にわたり、異分野の領域でも打ち解けて疑問に思ったこと素直に質問でき、楽しく知識を広げることができました。

以上をまとめますと、私は育成セミナーの参加を通して、研究者として生きていくのに必要な総合的な力、“研究者力”を高められたのではないかと考えております。最初は知り合い、友人がいない中参加した私でしたが、育成セミナーはそんな私にもオープンでした。話しやすい雰囲気の中、いろいろな先生方、受講生の皆さまと交流でき、非常に有意義な時間を過ごせました。これからもこのセミナーには継続して参加させていただきたいと思っておりますし、知り合った先生方、受講生の皆さまとも、また学会等でお会いし、お話しさせていただければと強く願っております。

最後に、このような若手研究者にとっての素晴らしい学びの場、神経化学の若手研究者育成セミナーを開催・運営していただきました、日本神経化学会の関係者の皆さまに深く感謝し、今一度、厚く御礼申し上げます。